

連合群馬・群馬県経営者協会 労使意見交換会

7月13日、前橋ホテルにおいて開催し、連合群馬及び群馬県経営者協会（以下、群経協）の四役による意見交換を行いました。

はじめに、群経協児玉会長より「群経協と連合群馬は健全な労使関係であり、全国でも珍しいと認識している。本日は膝を交えた意見交換を行いたいと思うので宜しくお願いしたい」と挨拶され、続いて大橋会長から「経済情勢は上向き傾向と言われている中、地場零細企業から大手企業まで安心して働ける職場を構築していきたい」と挨拶がありました。その後、事務局よりこれまでの労使の取り組みを説明し全体で共有をはかるとともに、今後の課題の一つとして、若年者の就労支援に向けた活発な意見交換を行いました。



若年者の就労支援に向けた主な意見

- ◎新卒者は自分に対して甘さがあると感じており、いかに自分を売り込むことが大切か教える必要がある。
- ◎最近仲間意識が薄く、自分さえよければ良いという考え方が強くなっている傾向があり、親も含めた教育が必要である。
- ◎入社後、一定の教育を行いたいと思いつつもその時間が取れず現場に出さなければならない状況にある。
- ◎現在は、「働く意義」を教えることが求められている。団塊世代の引退に伴い技術の伝承をどうすべきかなど、企業も悩んでいると思うが労使の役割の中でできることを模索していきたい。

今後は、意見交換内容の論点整理を行い、労使において論議を深め具体的な取り組みにつなげていきます。



平和集会で黙祷する参加者

2010平和行動in 沖縄

—沖縄は、65年間米軍基地に悩み苦しんでいます!—

6月23～25日、連合群馬を代表して2名が参加しました。

23日の平和オキナワ集会では、若者たちの平和メッセージや「日米安保条約改定50年～米軍基地の実態」と題した講演が行なわれました。

その後、主催者を代表して、南雲事務局長から、「米軍基地の整理・縮小と内容に不備がある地位協定の抜本的見直しに向け、粘り強く活動を進めなくてはならない。沖縄戦を学び家庭や職場、地域で語り部となしてほしい」との挨拶がされました。

24日は、①米軍が上陸した渡具知海岸、②避難場所となったチビチリガマ、③嘉手納基地、④普天間飛行場の移設予定先の名護市辺野古などを見学し、沖縄戦や歴史・当時の悲惨な状況と米軍基地の現状を学習しました。



滑走路建設予定地である
辺野古海岸の建設反対看板



連合沖縄青年部ピースボランティアの皆さんと参加者



道路にこんな看板を
発見！
不動産業者の看板で
すが、求む！「軍用
地」とあります…